

平成5年4月1日発行  
兵庫県教育委員会  
埋蔵文化財調査事務所

〒652 神戸市兵庫区荒田町

2丁目1番5号

TEL 078-531-7011

FAX 078-531-7014

# ひょうごの遺跡

2693

## 速報！ 平成4年度発掘の成果

兵庫県教育委員会では、平成4年度中に36件50遺跡の発掘調査を行いました。今号では、そのほんの一部ですが、17遺跡の発掘調査成果の概要をご紹介します。

### 近世伊丹の酒造跡

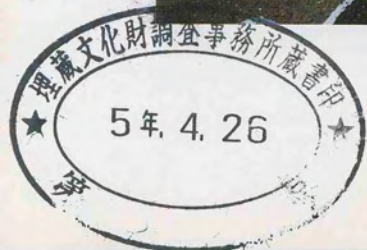
いたみごうちょう ありおかじょう  
伊丹郷町・有岡城跡（伊丹市宮ノ前）

伊丹は、戦国時代に荒木村重の居城有岡城の城下町として発展し、江戸時代には酒造りで栄えた在郷町として有名です。兵庫県教育委員会では、昭和62年度から市街地再開発に関連して発掘調査を進めており、平成4年度は、県道の建設に伴って3地点の調査を行いました。

発掘調査では、江戸時代の酒造家跡や、天正

2年（1574）に造営されたと伝えられる光明寺の歴代墓地跡、有岡城の主郭を囲む堀跡などがみつかりました。

写真は、江戸後期宝暦年間（1750年代）に和泉町にあった酒造家総屋四郎三郎の酒蔵のこおじ麹釀竈跡で、石造りの地下式作業場に2基の焚き口を持つものです。これまでに発見された竈かまどでは最も古い時代のもので、酒造りの歴史を知る上で貴重な発見となりました。







### △全国最大規模の祭祀跡

いるさかわ  
入佐川遺跡 (出石郡出石町宮内)

小野川河川改修のために昭和62年度から発掘調査を進めています。これまでの調査では、奈良～平安時代の“祓”に使用する木製の人形・馬形などの祭祀具が大量に出土しています。今回の調査では、古墳時代中期の水田跡や川跡が見つかり、お祭りをした跡と考えられる土器列や緑色の石で作られた石釧(腕輪)の破片も出土しました。



### △弥生時代の墓地

あんたに  
庵の谷遺跡 (美方郡村岡町森脇)

平成6年に開催が迫った全国植樹祭の関連で発掘調査したところ、弥生時代末から古墳時代初めにかけての墓地が発見されました。この墓は後の古墳とは異なり盛土がなく、穴の中に直接棺を埋めた木棺直葬墓と呼ばれるものです。写真に見える長方形の穴が木棺の痕跡で、棺や遺体は腐って残っていませんでした。

### ▽播磨国分尼寺回廊跡を初めて確認

はりまこくふにじ  
播磨国分尼寺跡 (姫路市御国野町国分寺)

奈良時代中頃には、仏教の力で国を守ろうという意識が強まり、全国に国分寺や国分尼寺が築られました。播磨国では、JR御着駅の北側に国分寺と尼寺跡がありますが、尼寺跡の構造については、まだよくわかっていません。今回県道の道幅を拡げる工事に先立ち調査したところ、中門付近の回廊に伴う雨落溝と推定される遺構が見つかり、多量の瓦が出土しました。



### ▽縄文～弥生時代の集落跡

ながさか  
長坂遺跡 (神戸市西区伊川谷町長坂)

神戸西バイパス建設に先立ち発掘調査をしました。遺跡は伊川の沖積地に張り出した扇状地上にあって、中世初めの畑や水田跡と古墳時代初めの竪穴住居跡が6棟見つかりました。住居跡のうち3棟は火災にあっており、炭化した建築材が出土しました。また、下層には縄文時代後期のムラが埋もれていることもわかりました。





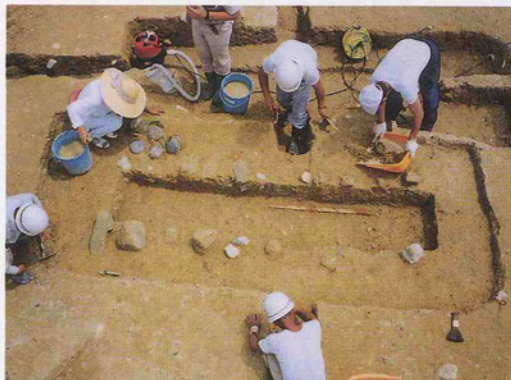
## ▽ 6つの埋葬施設を持つ古墳

おおいけ

大池 7号墳 (三木市久留美)

山陽自動車道建設に先立ち調査しました。

古墳は、平野を見下ろす段丘の先端部にある直径15m、高さ2m程の円墳で、墳頂部には6基の木棺を納めた跡がみつかりました。棺内には、須恵器や鉄製の大刀、ガラス玉の首飾りなどが副葬されており、遺物の年代から6世紀後半に築かれた古墳であることがわかりました。



## △ 尊勝寺の瓦窯跡

くるみかまあと

久留美窯跡群 (三木市久留美・跡部)

山陽自動車道建設に先立ち調査をしたところ、奈良時代と平安時代後期の須恵器を焼いた窯跡が6基みつかりました。なかでも、2基の窯跡では須恵器とともに瓦が焼かれており、瓦の中から平安時代後期の京都で造営された尊勝寺や鳥羽離宮から出土したものと同じ型から作られた瓦もみつかり、注目されています。

## ▷ 三木城攻めの陣城跡

かさやまじょう

▷ 加佐山城跡 (三木市加佐)

山陽自動車道建設に先立ち調査しました。

三木市には、織田信長軍が三木城を攻めた際(1578～1580年)に多数の陣城(臨時的に築かれた砦)を築いたと伝えられていますが、その場所についてはほとんどわかっていませんでした。加佐山城跡はその陣城のひとつと考えられます。城は、曲輪くるわの周囲を土塁どるい(土を盛った土手よこほり)と横堀で囲んでいることがわかりました。



じげんじやまじょう

▷ 慈眼寺山城跡 (三木市久留美)

加佐山城跡と同様の陣城のひとつと考えられます。この遺跡では、城の最高所に曲輪(平坦地)があり、礎石建物跡が見つかっています。曲輪の周囲には幅3mほどの堀が巡らされていました。江戸時代の地誌「播磨鑑」によれば有馬法印が陣を置いた場所とされていますが、事実は不明です。







### △福原京にせまる

しんだいびょういんこうない  
神大病院構内遺跡 (神戸市中央区楠町7丁目)

隣接する楠・荒田町遺跡と一連の遺跡で、平安時代末に、平清盛が「福原京」を築いた場所といわれています。神大病院の改築に伴って調査を続けており、これまでに大規模な建物跡や屋敷を囲む堀跡がみつかっています。今回の調査では、焼土層や焼けた礎石とともに、建物の軒瓦や中国産の青磁などが出土し、福原京に迫る新たな手掛かりを得ることができました。

### ▽最古の方形周溝墓群

ひがしむこ  
東武庫遺跡 (尼崎市武庫元町)

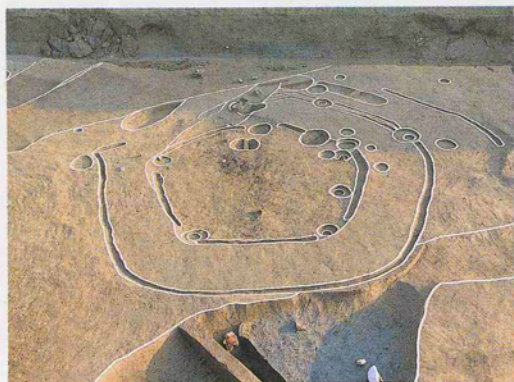
団地建設に伴って発掘調査したところ、弥生時代前期の6基の方形周溝墓群がみつかりました。方形周溝墓とは周囲に方形に溝を巡らせた墓のことです。近畿地方では、弥生時代前期に出現するとされていましたが、これまでに発見例が少なく、今回の発見でこれを裏付けることができました。また、墓の規模に差があることも社会の発展を考える上で重要です。



### ▽大規模な掘立柱建物跡

おうへ  
小戸遺跡 (川西市中央町)

川西能勢口駅周辺の再開発に伴い発掘しました。弥生時代後期～古墳時代前期・古墳時代後期～平安時代前期・平安時代後期～鎌倉時代の3時期にわたる大規模な遺跡です。古墳時代後期と推定される時期には、方形の掘り方の柱穴を持つ大きな掘立柱建物跡があり、その性格が注目されています。



### △珍しい五角形住居跡

たのうたかだ  
田能高田遺跡 (尼崎市田能)

弥生時代の遺跡としては全国的に有名な田能遺跡の対岸にある遺跡で、園田競馬場の厩舎建築に先立ち調査しました。弥生時代後期から古墳時代中期にかけての堅穴住居跡や、珍しい銅鏡片・有孔円盤・石釧などが出土しました。8棟見つかった堅穴住居跡の中に例の少ない五角形の住居跡(写真)がありました。





## ▽最小規模の竪穴住居跡

はけ  
波毛遺跡（洲本市納）

洲本バイパスの建設に先立ち発掘調査しました。遺跡は弥生時代中期の集落跡で、竪穴住居跡や水田跡がみつかりました。写真の住居跡は直径が3.7mしかなく、標準的な直径6～7mの住居と比べ非常に小さいものです。しかも柱を立てるための穴が二つしかありません。たった2本の柱では屋根を支えるのが大変なため、穴の深さは1m近くもありました。



## ▽奈良時代の役所跡

しもないぜん  
下内膳遺跡（洲本市下内膳）

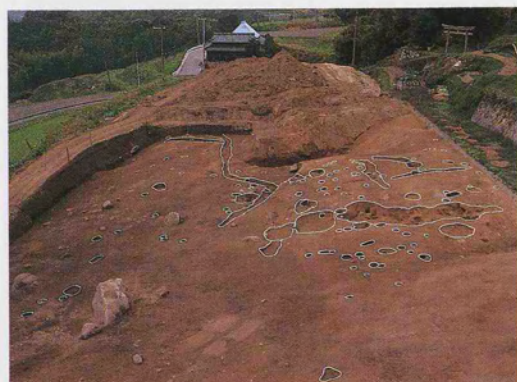
県道の改良工事に伴い発掘調査を実施しました。以前から縄文時代晩期から弥生時代前期の土器が出土するなど淡路地域では最も注目される遺跡でしたが、今回、弥生時代中期から後期にかけての住居跡や水田跡、奈良から平安時代にかけての建物跡などがみつかりました。特に奈良時代の掘立柱建物跡（写真）は規模が大きく、当時の公的機関の施設と考えられます。



## △西日本最大規模の縄文遺跡

つくだ  
佃遺跡（津名郡東浦町浦）

本州四国連絡道路建設に関連して平成3年度から発掘調査を進めてきました。遺跡は、西日本では珍しい縄文時代後期から晩期にかけての集落跡で、住居跡や貯蔵穴が多数みつかりました。また、土器や石器のほか食糧にしたと考えられるシカやイノシシ、イルカなどの海・山の動物の骨など出土遺物が豊富で、西日本の縄文時代研究には欠かせない遺跡のひとつとなりました。



## △鎌倉時代の集落跡

ふじのき  
藤ノ木遺跡（津名郡東浦町山田原）

本州四国連絡道路の建設に先立ち調査しました。大阪湾が一望できる山沿いに営まれた鎌倉時代の遺跡で、茶碗や皿等の土器とともに、建物の柱穴や排水用の溝、物を捨てた穴が見つかりました。恐らくこの付近に当時の集落があったことと考えられます。



## シリーズ“遺跡を掘る”

## 貯蔵穴 (東浦町佃遺跡)

縄文時代（約10000年～2500年前）の人々はシカやイノシシなどの動物を捕まえたり、木の実（ドングリ）を集めて食糧を確保し、生活していました。まだ米作りはしていなかったようです。そのため、冬になると手に入る食べ物が減ってしまうので食糧を保存する必要がありました。そこで縄文人は秋に収穫したドングリを地面に掘った穴の中に埋めて保存し、冬場の食糧にしていたようです。そのドングリを保存しておく穴のことを「貯蔵穴（ちょぞうけつ）」と私たちは呼んでいます。

写真は貯蔵穴の断面で、淡路島の東浦町にある佃遺跡で見つかった貯蔵穴（約3500年前のもの）のうちの1つです。直径約1m深さ約40cmで、底に近い所にある小さな粒々がドングリです。本来はもっとたくさんのドングリが保存されていたのでしょう。なお、このドングリは「イチイガシ（ブナ科）」という種類の木の実です。



## 平成4年度の出土品整理と普及活動

## 〈出土品整理〉

平成4年度には、神戸市西区玉津田中遺跡をはじめ、27の遺跡の出土品整理をおこないました。その成果の一部は当事務所の展示室で「後期企画展 平成4年度の遺物整理から」として展示公開中です。

## 〈特別展 祖先のあしあとを科学する〉

平成4年度の特別展を平成4年10月18日～11月1日の15日間開催しました。テーマは発掘調査にかかわる科学的な研究分野をわかりやすく紹介したものです。期間中は大勢の方々にお越しいただき、大盛況のうちに閉会することができました。当事務所の施設、展示内容はともに皆様方に決して満足いただけるものではありませんが、発掘調査の成果をわかりやすく紹介しようと手作りで行っているものです。発掘現場と博物館との間を埋める親しみやすい展示と心がけています。

展示期間中の10月24日には山形大学教授の前田保夫先生をお迎えし、「兵庫の自然史3万年を語る」と題して講演会を行いました。



大田遺跡出土の大甕の整理作業(まるで桃太郎?)

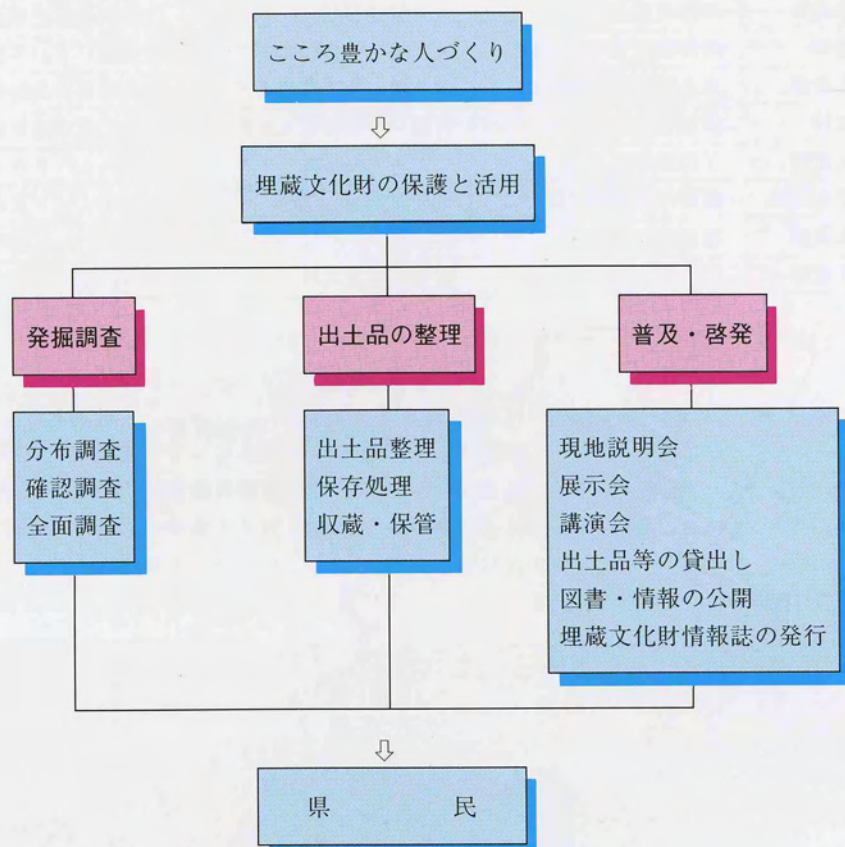


観覧者で賑わう特別展



## 埋蔵文化財調査事務所はこんな仕事をしています

埋蔵文化財調査事務所は、道路の建設や宅地の開発といったさまざまな開発事業に際して事前に埋蔵文化財の調査を行い、これらを保護し活用するために下図のような仕事をしています。



### 開発事業と発掘調査

埋蔵文化財調査事務所では、開発事業に先立ち事業者と保存協議を重ねたのち、遺跡の性格とその価値を明らかにするために発掘調査を実施しています。遺跡は、多くの場合は発掘調査終了後には壊され、開発が行われます。このために発掘調査の成果は記録として保管することになります。左の写真は伊丹郷町・有岡城跡の発掘調査風景で、背後の地区ではすでに発掘調査が済み音楽ホールが建設されています。



## 平成5年度のおもな発掘調査予定

No.	遺 跡 名	所 在 地	遺 跡 の 種 類	開 発 事 業
①	清水廻り遺跡	神戸市北区八多町	中世集落跡	山陽自動車道建設
②	八多中遺跡	神戸市北区八多町	中世集落跡	山陽自動車道建設
③	白沢窯跡群	加古川市上荘町白沢	奈良時代窯跡	山陽自動車道建設
④	亀田遺跡	揖保郡太子町上太田	弥生時代～中世集落跡	姫路西バイパス建設
⑤	七日市遺跡	氷上郡春日町野村他	旧石器・弥生時代集落跡	北近畿豊岡自動車道建設
⑥	砂入遺跡	出石郡出石町袴狭	古墳～平安時代水田跡	小野川放水路事業
⑦	下西山遺跡	三田市けやき台	弥生時代集落跡	北摂ニュータウン建設
⑧	宝林寺北遺跡	龍野市揖保町中臣	中世集落跡	揖保川広域下水道事業
⑨	堀山古墳群	加西市網引町	古墳群	加西網引工業団地造成
⑩	東武庫遺跡	尼崎市武庫元町	弥生時代集落跡	尼崎武庫元町団地建設



平成5年度には、表に示した遺跡の発掘調査や、出土品整理、特別展等を実施する予定です。

※番号は表に対応



(愛称：ココロ)  
“こころ豊かな兵庫”を  
めざして

## 編集後記

昭和61年に11号を発行して以来、長らく途絶えていました『ひょうごの遺跡』を再び発行するのはこびとなりました。この間に、当事務所は平成元年度より社会教育・文化財課から独立した機関となりました。これまで多くの皆様から当誌発行に対するご要望をいただきましたが、当年度3～4回の発行を目標とし、できるかぎり最新の情報をわかりやすくお伝

えしたいと考えています。

今号では、平成4年度の発掘ニュースを中心にまとめてみました。次号からも、いろいろと新しい企画を練っていますのでご期待下さい。また、よりよい内容を心がけてまいりたいと考えておりますので、誌面についてのご意見・ご希望・ご質問等がございましたらどうぞ“ひょうごの遺跡”編集担当までご連絡下さい。